



第49号  
3.3.2  
発行 高等学校  
島根県立平田高等学  
暁星 会  
印刷  
(有)西村印刷

### 前に進めば道は開ける



会長 山下 壮一

暁星会会員皆様には、平素より当会及び母校平田高等学校に對しまして、格別のご支援を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

お過ごしのことと存じます。ましては、日々ご健勝にて

この一年間は平田高校に於きましても、新型コロナウイルス禍の影響を受けた激動の年でありました。

野球部・創部以来七十年にして、初めて掴んだ甲子園への切符。紆余曲折を経て、一試合だけの交流試合となりましたが、悲願の「甲子園の土を踏む」ことになり、球児達は元より多くの人々にとっても大きな喜びとなりました。暁星会会員皆様方よりも多額のご支援を賜り改めまして厚くお礼を申し上げます。コロナウイルス感染拡大により、開幕直前に選抜大会と、夏の選手権大会が中止されました。しかしながら球児達は「夢を抱き・情熱を燃やし続けて」気丈に歩みました。去る八月十一日・長崎県立早市の創成館高校と対戦致しました。惜敗は致しましたが全員野球で爽やかに試合を納め、応援をして頂いた皆様方に素晴らしい感動を与えてくれました。

平田高校開校以来の快挙に對し、記念碑



島根県で初の十連覇達成の栄光を讃え「顕彰碑」を建立致しました。完成は二月二十五日であります。この会報がお手元に着く頃には「野球記念碑」の対面に「女子島根県高等学

を建立致しました。沢山の皆様方には是非母校にお立ち寄り頂き「暁星会館・プラタナス会館」の前に輝きを放つ記念碑をご覧頂きたいと思えます。また、甲子園球場で球児達が活躍をした記録誌と、時の流れに翻弄され苦難の日々を懸命に歩んだ「監督と球児達」の作文集を発売致しました。球児達の「汗と涙」の結晶である記念碑と冊子は、全ての生徒達や後に続く若者達に「夢を諦めず・感謝の心を持つ」その大切さを語って欲しいと思えます。

そして、陸上競技部に於いては「島根県高等学校駅伝競走大会」に於いて、「男女アベック優勝」の快挙を成し得ました。男子チームは常勝「出雲工業高校」を破り、悲願の初優勝を果たしました。また女子チームは県内初の「十連覇」（十二度目の優勝）の偉業を達成致しました。去る、十二月二十日・京都都大路を男女チームそれぞれに力走を致しました。特に女子チームは過去最高の二十五位の順位を収め、都大路を疾走する出雲の姫神達の勇姿を全国に披露致しました。

駅伝競走大会・十連覇達成記念」の顕彰碑がまたひとつ輝きを放ちます。こちらの「顕彰碑」も機会を得て是非一覽ください。今年の各大会は男女チーム共に今年度以上の成績が期待されます。

他の体育・文化の部活動に於いても柔道部の素晴らしい活躍を始め、各部門それぞれに立派な成績納められました。各部活動の様子は別欄にてご報告されています。辛く苦しい日々の中に「耐え忍び」ながら「文武両道」に努力された生徒の皆さんに對しまして、心から敬意を表すると共に感謝を申し上げます。

私事では有りますが、今年度の役員改選により不肖の身を省みず再び重責を担うことになりました。二期目の務めを最後として、今後の暁星会の更なる発展の為に尽力をいたしたいと存じます。更なるご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

結びに、会員ご一同様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げご挨拶と致します。

### 地域から信頼される、魅力と活力のある学校づくりの推進



校長 坂根 昌宏

暁星会会員の皆様には、平素より本校の教育活動に對してご理解・協力を賜り、誠にありがとうございます。特に、野球部の甲子園出場に際しましては、物心両面にわたって多大なご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、令和二年度は、新型コロナウイルスに振り回され、これまでに経験したことのない様々なことがありました。全国的に感染が拡大する中、新年度早々、全国に緊急事態宣言が出されて経済活動が停滞したり、世界的な感染拡大によって東京オリ

ピック・パラリンピックが延期になったりするなど、社会全体に大きな影響がありました。島根県内でも感染が発生したため、県立学校は四月二十日から一か月を超える臨時休業となり、学校再開前にはクラスを半分に分けて授業を行う分散登校を実施しました。部活動にも大きな影響があり、県総体やインターハイ、文化部の各種大会は中止となりました。特に三年生にとっては高校での部活動の集大成ともいうべき機会が失われ、完全燃焼できなかったこととても残念でした。

このような状況の中、本校野球部が「二〇二〇年甲子園高校野球交流試合」に出場したことは、明るい話題として大きく報道されました。二十一世紀枠として出場することが決まっていた「第九十二回選抜高等学校野球大会」が開幕直前に中止となり、一時は甲子園の晴れ舞台で選手たちの勇姿を見ることができないのではないかと心配しましたが、創部以来七十年の悲願であった甲子園出場の夢を叶えることができました。八月十一日の第二試合で長崎県の創成館高校と対戦し、平田高校らしい全員野球で強豪校相手に終盤までほぼ互角に試合を進め、元氣あふれるさわやかなプレーをたくさん見せてくれました。残念ながら「甲子園で校歌を歌う」という目標を達成することはできませんでしたが、自分たちの力を出し切ったナイスゲームでした。交流試合は無観客での開催であったため、試合当日は全校生徒が学校に集まり、教室でテレビを観ながら応援しました。地域の方々には平田文化館に開設されたパブリックビューイングで応援していただきました。甲子園初出場の感動を少しは共有できたのではないかと思います。

また、陸上競技部は、十月三十一日に行われた島根県高校駅伝で、男子は出雲工業高校の二十五連覇を阻止して初優勝、女子



は十年連続十二回目の優勝を成し遂げ、男女アベックで十二月二十日に京都で行われた全国高校駅伝に出場しました。日頃の厳しい練習に裏付けられた自信とチームメイト同士の信頼を基盤として、当日のレースでは、男子も女子も一人一人が粘り強く走り、持っている力をしっかりと発揮してくれました。NHKテレビで生中継されましたので、都大路を走る雄姿をご覧になっていただいたことと思います。男子は初出場ながら四十三位、女子はこれまでの最高順位を上回る二十五位というすばらしい結果でした。男女とも一、二年生中心のチームであるため、来年度もアベック出場が期待されます。

こうした部活動の活躍や一昨年度から取り組んでいる文部科学省「地域の協働による高等学校教育改革推進事業」に関わる取組など、本校の話題が新聞やテレビに取り上げられる機会が増え、平田高校は今、島根県で最も勢いのある学校だと言われています。この勢いを今後も持続していくためには、地域の少子化が急激に進んでいく状況にあっても、島根県教育委員会が適正規模の最低ラインとする現在の一学年四学級の規模を維持することが必要です。そのためには、これまでの「文武両道」に加えて平田高校ならではの教育の魅力化を進め、選ばれる学校づくりに取り組みでいかなければなりません。本校は普通科のみの高校であるため、特色を出しにくい面がありますが、平田地域に唯一の高校であることや生徒の地元志向が強いことなどから、地域と連携して人材を育成する教育活動に力を入れることが、平田高校の大きな魅力になると考えています。文部科学省の事業は令和三年度で終了しますが、その後も引き続き地域の皆様の協力を得ながら体験的・探究的な学びに取り組み、さらなる質の向上を目指したいと思っています。

このたび卒業する百五十五名は、「地域協働学習」に取り組んだ一期生です。本校で学んだことを基盤として、将来は地域人材として活躍してほしいと思います。また、これからは学校の外から母校を支える強力な応援団になってくれることを期待しています。そのためにも、暁星会の先輩方と関わる機会を大切にして、人間関係を広げてほしいと思います。先輩の皆様には、新会員を快く受け入れていただきますようお願いいたします。母校への熱い思いを接点として結集し、組織的にご支援いただくことほど学校にとって心強いことはありません。こうした同窓生同士のつながりを広げたり強めたりするために、私は近い将来、暁星会総会が開催されることを期待しています。最後になりましたが、私は令和二年度末をもちまして定年退職いたします。暁星会会員の皆様には、いろいろとお世話になり、ありがとうございました。平田高校には三年間勤務し、様々なことを経験させていただきました。充実した毎日を送ることができて、とても嬉しく思っています。暁星会会員の皆様には、平田高校の魅力化を推進するために、さらなるご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

**部活動**  
**上位大会**  
**出場者から**

**柔道部**

**「高校チャンピオンを目指して」**

柔道部 二年 福田 大和



私は、三月に日本武道館で開催される全国高校柔道選手権大会に出場します。昨年、この大会はコロナ

ウィルスのため直前に中止となり、その後も目標にしていた主要大会が全て中止となつてしまいました。大会がなくなったことは残念でしたが、いつ試合があっても戦えるように準備しておこうという気持ちで、稽古に励んでいました。

コロナ禍で部活が出来ない期間は、今出来ることを地道に続けようという思いで、下宿から自宅に戻り、今まで通りトレーニングを続けました。また、怪我をしていた体の治療、体作りのために食事にも気を付けて生活をしました。道着を着た練習が出来なかつた分、組み合つて練習したいという柔道に対する気持ちも高まり、精神的にも充実した時間になりました。

今大会の私の目標は優勝です。日本一になるといのは、口で言うほど簡単ではないと思つています。私達は、全国にある私立の強豪校に比べると、恵まれた練習環境にあるとは言えません。その中で優勝するために、単に与えられたメニューをこなすのではなく、試合を想定して、意識を大切に工夫して練習してきました。何気なく練習していたのでは、全国の強豪たちと競えませんが、毎日繰り返す打ち込み、乱取り、技の一つでも、試行錯誤し、これがベストなのかと日々考えています。食事や休養など、練習以外の部分も練習と同じように大切にしてきました。

また、自分で考えて行動できる選手でいたいので、自分のプラスになることは取り入れようと、事を成し遂げた人のエピソードや言葉などはスポーツ選手に限らず、情報を得るように心掛けてきました。

このような日々を積み重ねてきて、やつと大会が開催されることになり、とても嬉しく思っています。早く自分の力を試したいという気持ちで試合が楽しみです。

最後に、このコロナ禍によって、普段していた練習さえも当たり前ではなくなつたと

**陸上部**

**「支えられて」**

直良 聖也



私の高校三年間は陸上部での思い出が大半です。辛く苦しい思い出も、今となつては全てが良い思い出です。

これも、部活動を通して関わった方々のおかげです。

入学した当時は、全国高校駅伝の舞台を走るなど夢にも思いませんでした。部員は三年生が引退されてから三人となり、県駅伝は他校との合同チームで出場しました。

その後も、人数が少ないため活気もなく、記録も伸びず、走ることが楽しくなくなり退部も考えるほどでした。しかし、設定どおりの練習もできず、怪我や貧血でほとんど走れなかつた私を我慢強く指導してくださったコーチ、姿勢や体調管理など走り以外の改善をサポートしてくださったトレーナー、大会で応援してくださった保護者の方々、どんな愚痴も聞いて一緒に悩んで支えてくれた両親、いつも応援に来て誰もが聞こえるような大きな声で応援してくれた祖父母に心から感謝しています。そして、卒業した後も連絡をくださり、練習に来て指導してくださった先輩方、個性あふれる後輩たちから刺激を受け切磋琢磨したおかげで、陸上競技を心から楽しむことができようになりました。

県駅伝でのアベック優勝は、コロナウィルス感染症という今までとは違った状況下



でも、「いつもどおり」自分たちで練習ができた結果だと思えます。自粛期間中、一人だと不安になるので、個々の状況についてこまめに連絡を取り、お互いの頑張りを確認することで士気を高めていきました。そして、部員一人ひとりが同じ目標に向かって一丸となって取り組んだ結果です。全国駅伝では、お世話になった皆さんを笑顔にするという思いで走りました。私自身、緊張もありましたが、最初で最後の大舞台を楽しく力いっぱい走ることができました。自分の持てる力は全て出し切れたので、今までの中で最高の駅伝となりました。来年は、今年得た経験を活かし島根県最高記録の更新を目指し頑張つてほしいです。

「感謝の気持ちを忘れない」

平田高等学校 今岡 有莉香



私は全国駅伝に出場するために平田高校に入学しました。二年生の秋から力が付いてきて、県駅伝では一区の区間記録を塗り替え、中国駅伝でも区間三位になりました。自分がそこまで速くなれると思っていなかったのですごく驚きました。努力することの楽しさや、「私ならできる」と自分を信じることの大切さを知りました。

三年生になり、新型コロナウイルスの影響でみんなと練習できない日々が続く、たくさん大会が中止になりました。三年間の集大成の大会がなくなりモヤモヤを抱えたまま引退する友達が沢山いました。今まで当たり前だった日常が変わり、私は全ての大会が無くなるだろうと思いました。そして目標を見失い、家での自主練習に身が入らなくなりました。しかし自粛期間が終わってから沢山の方々のお陰で県総体の代替大会を開催してもらったことができました。

「沢山の方々への感謝の気持ちを忘れない」ということの大切さを改めて実感しました。有難いことに県駅伝も全国駅伝も開催してもらったことができて、私はとても幸せだと感じました。しかし、県駅伝も全国駅伝も自分の力を発揮することが出来ずに終わってしまいました。県駅伝での優勝も、全国駅伝での二十五位も二区から五区のみながら、持っている力を出し切ってくれた結果でした。申し訳なかつた悔しさがあつたけれど、自分一人だけで闘うのではなく仲間と一緒に闘える駅伝をさらに好きになりました。陸上競技は辛いこともあるけど挑戦してみても良かったと思います。私と真剣に向き合ってくださるコーチ、楽しいことも辛いことも共有して切磋琢磨できる最高の仲間と過ごすことが出来た三年間は忘れられない思い出になりました。私は大学でも陸上競技を続けます。辛いことに目が行きがちになるけど四年後に、やつて良かった、宝物のような経験だったと言えるようにストイックに取り組んでいきたいと思えます。

野球部

「2020年甲子園 高校野球交流試合に出場して」

野球部 三年 保科 陽太



私たち平田高校野球部は、八月十一日に「2020年甲子園高校野球交流試合」に参加させて頂きました。試合に至るまでに、多くの方々のご尽力によって、憧れの甲子園で野球をさせて頂いたことに心から感謝を申し上げます。

昨年から続いている新型コロナウイルスの影響で、私たちは憧れの舞台への挑戦を二度も絶たれました。絶望感と苦しみで胸がいっぱいになり、気持ちも沈みました。

そんな中私たちの励みになったのが、家族や地域の方々から私たちに掛けてくれた言葉です。すれ違う時など、「頑張つてね」や「応援してるよ」など、温かい言葉をかけて頂き、改めて応援してくださっているんだと実感しました。そのおかげで、チームのミーティングで「最後まで頑張ろう」と、前を向くことができました。

試合当日は、緊張感とワクワク感と同時に支えて頂いた方々や、コロナによって気持ちが沈んでいる全国の方に、元氣と勇氣を与えられるようにプレーをしました。結果は、負けてしまい、目標であった「甲子園で校歌を歌う」ことは達成できませんでしたが、最後まで諦めず、元氣のよい、平田高校の野球ができました。

私は、高校野球を通して大切なことを学びました。

一つ目は、仲間の大切さです。高校野球の三年間で、多くの苦しみや、つらいことがありました。この苦しみを乗り越えることができたのは、仲間の存在があつたからです。苦しみを分かち合い、支え合い、練習では一緒に汗を流し切磋琢磨しあつた仲間だからこそ、乗り越えることができました。そして、目標にしていた、甲子園で野球をすることができました。私にとつて、今までの時間の中で一番幸せな時間でした。二つ目は、当たり前前にできていることに感謝をすることです。

新型コロナウイルスの影響で、多くのものが奪われました。当たり前前に過ぎていた野球が学校生活が、当たり前前に過ぎていた野球がでなくなり成長することができました。最後まで努力することの大切さも学ぶことができたし、学校生活や野球ができていくことは幸せなことだと実感することができました。

この三年間の高校野球は、私を人として

放送部

私を育ててくれた場所

放送部 三年 森本 晶大



私はこの部活動に入ってから多くのことを経験しました。一つ目は、地域の方の温かさや優しさです。私たちは放送部が作っている番組やアナウンスは、地域の方の協力があつてこそ制作することが出来ます。私たちの拙い取材に、快くまた丁寧に答えてくださいました。地域の方にはとても感謝しています。

二つ目は、意見をぶつけ合うことの大切さです。二年生の時、同じ学年の三人で番組を制作することになりました。番組の構成を考える際、意見がうまくまとまらず、言い合いの喧嘩のようになってしまいました。でも、思っていることをぶちまけることで、互いに理解することができ、それ以上で仲良くなりました。そして、番組をよりよい形にすることができ、私たちの作品は、NHK全国放送コンテストに出場することができました。この時、私は、人と意見をぶつけ合うことは、人間関係を壊すのではなく深めることができることを知りました。

三つ目は、責任感をもって最後までやり遂げることです。三年生になり先輩と生姜糖をテーマにした作品を作りました。生姜糖の魅力を多くの人に伝えるために、いろいろな案を出しました。その際、私が部長だったので、先輩の指導や部長としての責任など、いろいろなことを考えながら制作していました。そのため、それまでとは違う感覚でしたが、とても楽しかったです。



す。また、自分が最後に携わったこの作品は、最も質の高い作品ができたと感じました。この作品も全国大会に出場でき、とても嬉しかったです。

放送部に入って、本当に多くのことを学びました。平田に住んでいても知らなかった地域の魅力、人に伝えるための難しさ、人間性の成長など、この部活動に入ったからこそ学べたことだと思います。三年間を振り返ると、途中で投げ出したくなるほど苦しいときもありました。でも乗り越えてきたからこそ、入部して良かったと思えました。この放送部に入って本当に良かったです。

### 文芸部

#### 私と文芸

三年 陰山悠華

全国高等学校校文芸コンクールで賞を頂いた作品は、本来の形ではとりに行えなかった俳句甲子園に向けて創作したものです。私はこの大会に強い執着を持って準備していました。大会に一年、二年とすべて参加し、一度も全国に出ることは叶わなかったからです。俳句甲子園では、作品以外にも出場者のディベート力も一つの採点基準です。平田高校はこの基準において後れを取ることも多く、いつも歯がゆい思いをしてきました。三年生となり、社会情勢すべてが変わっていました。出来る範囲で部員と先生と一緒に準備をしてきました。ですが、俳句甲子園も例に洩れず現地開催はあえなく中止となりました。

悔しい思いをしたのは部員全員だったと思います。最後の大会となるはずだった三年生、主力として臨むはずだった二年生、それぞれやるせない気持ちでした。それでも、時間は刻々と過ぎていきます。私達は、い

ま自分たちができることを懸命にやってきました。三年生は進路の準備をしながら作品作り、二年生は部誌づくりや新入部員の獲得など、それぞれが現状の最善を尽くせたと思います。また、この厳しい情勢下に刺激され、創られた作品もありました。これからも「今」を吸収し、自分たちの創作の糧にしていけたらと思います。

私は作品を作るとき、時々過去の自分の経験や感情をそのまま作品に投影させることがあります。その作品が良い評価を貰う時もあるし、逆の場合も勿論あります。今回、賞を頂いた作品も過去の自分を織り込んだものでした。どうしても感情をその場に出してはいけないという時は、多々存在します。私はその時のことを過去の事として作品にし、もう一度自分がしたかったこと、言いたかったことを見つめなおしていきます。この作業は羞恥と苦悩の連鎖です。作品が完成せず結果的に徒労となることもあります。完成した時の爽快感は何ものにもかえがたい喜びです。

これから私は大学に進学し、今まで以上に沢山のことを学びます。高校生では理解できなかった、知らなかった喜びや苦しみも経験すると思います。そして、創作を続けられるかわかりませんが、文芸作品には常に目を向けています。なにかどうしようもないものを背負ってしまったとき、創作という私にとつての救いの手を、忘れないために。



## 令和2年度部活動の成績

### 全国大会

- 野球部
  - 202年甲子園高校野球交流試合
  - 8月10日(月)～ 阪神甲子園球場
  - 平田0-4 創成館(長崎)
- 陸上部
  - 全国高校駅伝
  - 12月20日 京都市西京極陸上競技場
  - 女子 25位 1:12.57 学校最高順位
  - 男子 43位 2:11.32
- 文芸図書部
  - 全国高等学校校文芸コンクール
  - 俳句部門 優良賞 陰山悠華

### 中国大会

- 陸上部
  - 中国高校駅伝
  - 11月22日 山口市きらら博記念公園
  - 女子 8位 (30チーム参加) 1:13.43
  - 男子 15位 (34チーム参加) 2:12.31

### 県大会等

- 夏季体育大会(県総体代替)
- 陸上部
  - 男子1500m 3位 志食隆希
  - 男子5000m 1位 尾林恒星 2位 志食隆希
  - 男子3000mSC 1位 尾林恒星 2位 佐々木一哲
  - 尾林はU18日本選手権の標準記録を突破
  - 女子1500m 1位 今岡有莉香 2位 松原のどか
  - 3位 来間美月
  - 女子3000m 1位 今岡有莉香 2位 松原のどか
  - 3位 福岡涼子
- 柔道部
  - 男子個人戦
  - 60kg級: 要戸一颯 準優勝 大田奎牙 3位
  - 66kg級: 福田大和 優勝
  - 90kg級: 森山涉央 準優勝 戸倉 猛 3位
- サッカー部
  - 一回戦 平田0-3 松江商業

### ●バレー部

- 【予選グループ戦】
  - 平田2-0 出雲商 平田0-2 出雲西
- 【順位決定リーグ戦】
  - 平田0-2 大社 平田0-2 出雲農林
  - 順位決定リーグ戦 0勝2敗 最終順位 3位
- 卓球部
  - 男子シングルス 4回戦進出 朝津拓海 鄙山大輝
  - 女子シングルス 3回戦進出 竹内 葵

### ●剣道部

- 男子団体
  - 1回戦 平田2-0 飯南
  - 2回戦 平田0-5 大社 (団体戦優勝校)
- 女子団体
  - 1回戦 平田1-3 松江東

### ●男子バスケットボール部

- 【一回戦】 平田72-73 三刀屋
- 【敗者戦】 平田125-55 大東

### ●女子バスケットボール部

- 【一回戦】 平田35-76 出雲
- 【順位決定戦】 平田68-31 出雲西

### ●野球部

- 島根県高等学校秋季野球大会
  - 2回戦 平田11-4 遼摩
  - 3回戦 平田15-2 江津工業
  - 準々決勝 平田1-4 開星

### ●吹奏楽部

- 第44回全日本アンサンブルコンテスト島根県大会

### ●放送部

- アナウンス部門
  - 吾郷誠斗 優良賞 (中国大会出場)
  - 岩崎創真 優良賞 (中国大会出場)

### ○オーディオビジュアル部門

- 「島根の誇り 届けます」
- 代表: 岩崎創真
- 優良賞 (中国大会出場)

### ●美術部

- 令和2年度高文連出雲地区絵画コンクール

### ●文芸図書部

- 島根県高文連文芸専門部文芸コンクール
- 俳句部門 優秀作3位 細木美穂

### ●文芸部

- 随筆部門 優秀作2位 陰山悠華
- 文芸誌部門 優秀作 (全体の2位)
- 高校生文芸道場中国ブロック大会
- 俳句部門 入選 團山実穂
- 伊藤園お〜いお茶新俳句大賞
- 佳作特別賞 西尾柚葉

### ●ESS

- 第56回島根県高等学校国際教育日本語弁論大会
- 兼 第67回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール島根県大会
- 山陰中央新報社賞 和田守華梨
- TSKさんいん中央テレビ賞 福田佳七子

### ●写真部

- 令和2年度高文連秋季出雲地区写真コンクール
- 特選 (13名, 15作品)
- 入選 33作品

## 進路の状況

### 進路概況(延べ数)

合格先	卒業年度		H29年度		H30年度		R元年度	
	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒
合格者数	国立大	7	8	20	5	13	10	
	公立大	31		26	2	28	2	
	私立大	67	3	45	5	109	28	
	文科学部外の大学校					1	2	
	国立公立短大	5		5		3		
	私立短大	1		10		11		
	文科学部外の短期大学校			7		5		
	看護学校	3		9		14		
	その他	21		11		27	1	
	計	135	11	133	12	212	41	
就職者数	企業	7		4		2		
	公務員	3	4	2		5		
	計	10	4	6	0	7		
未卒業者数	12		16					
卒業生数	157	15	155	12				